

**クロレラによる抗炎症作用に関する研究成果が  
学術誌「医学と生物学」に掲載されました。**

医学と生物学 153 巻 第 12 号に掲載。

我々は、すでにin vitro(試験管内)評価試験において、クロレラが、炎症の発症に関与する酵素であるシクロオキシゲナーゼ-2やホスホリパーゼA<sub>2</sub>に対して活性阻害作用を有することを報告しています。( [関係資料1](#) ) そこで、自然発症した慢性的な皮膚障害を持つビーグル犬において、クロレラの抗炎症作用を確認するため試験を実施し、その成果を日本農芸化学会2008年度大会(2008年3月:名古屋)にて発表しておりました。同時に成果を論文にまとめ、学術誌「医学と生物学」に投稿しておりましたところ、この度掲載されましたので、ここにご報告いたします。

研究内容に関しましては、上記学会発表の資料( [関係資料 2](#) )をご参照下さい。

**《詳細》**

雑誌 : 医学と生物学 153巻 第12号 575-581

タイトル: 皮膚障害を持つビーグル犬におけるクロレラの抗炎症作用

著者 : 中鉢博文<sup>1)</sup>、齋藤昌子<sup>1)</sup>、竹腰英夫<sup>1)</sup>、湯浅一之<sup>2)</sup>、平中 尊<sup>2)</sup>

所属 : 1)株式会社サン・クロレラ 2)株式会社ナルク

この情報は、学術雑誌や学会において発表された内容の掲載であり、商品の販売促進を目的とするものではありません。